

日本人口学会 2026 年度第 1 回東日本地域部会プログラム

日時 2026 年 9 月 11 日 (金) 午後 2 時 00 分 – 午後 4 時 00 分
9 月 12 日 (土) 午前 9 時 30 分 – 午前 10 時 50 分

会場 仙台市市民活動サポートセンター 4F 研修室 5 (<https://sapo-sen.jp/>)
〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目 1-3
Zoom (オンライン)

<https://us02web.zoom.us/j/82331643112?pwd=rVEqQliVd3bDIUgSYAL2n6ahMTst1U.1>

ミーティング ID: 823 3164 3112

パスコード: 202142

プログラム

9 月 11 日 (金)

14:00 - 14:40 共働き化しても専業主婦は幸せなのか? —日本における妻の就業形態と幸福度の変化

佐藤一磨 (拓殖大学政経学部)

日本では女性就業率が上昇し、共働き世帯が主流となっている。この中において共働きの妻と専業主婦ではどちらの幸福度が高いのだろうか。本研究では、1995～2021 年の『消費生活に関するパネル調査』を用い、夫が正規雇用である 59 歳以下の有配偶女性を対象に、共働きの妻と専業主婦の幸福度を比較する。分析では共働き世帯が専業主婦世帯を持続的に上回るようになった 1997 年前後でサンプルを分割し、共働きの妻と専業主婦の幸福度を比較する。Fixed Effect Models を用いた分析の結果、いずれの期間においても専業主婦の幸福度の方が高いことが明らかになった。

14:40 - 15:20 Shrinking Japan and Regional Variations: Along the Sannindo

Fumie Kumagai (杏林大学)

This presentation, based on the author's fifth volume of Shrinking Japan and Regional Variations, examines demographic decline along the Sannindo. It highlights Kyoto Prefecture—historically including Tango and Tamba—and Tottori Prefecture, formerly Inaba and Houki and now Japan's least populous. Together, these cases show how national shrinkage unfolds with distinct regional patterns.

15:20 - 16:00 移動選択指数の標準化

清水昌人 (国立社会保障・人口問題研究所)

人口移動の地理的圏域の研究では、圏域設定の指標として流出入の地域構成を使うことが多い。しかし、こうした指標では、分析対象は移動数の内訳であって移動率ではないため、人口全体の移動性の変化が移動圏の拡大・縮小に与える影響は明示されない。

本研究では、圏域設定の代表的な指標である「移動選択指数」を取り上げ、この指標のなかに、移動性の変化の効果をより明確に反映させる方法を検討する。

9月12日(土)

9:30 - 10:10 「日本版死亡データベース」年齢調整死亡率からみた死因別死亡の都道府県較差の動向：1975-2024

菅 桂太(国立社会保障・人口問題研究所)

国立社会保障・人口問題研究所「日本版死亡データベース」による都道府県別・死因別の年齢調整死亡率に関する長期時系列データ(1975-2024年)を用いて、2つの問を検証する。2つの問とは、(1)日本の疫学的転換はすべての都道府県で一様に起こったのか、(2)死因別年齢調整死亡率の地域パターンは時系列で固定的なのか、である。本報告では、これらの検証に係る主要な結果を可視化し、明解に示すことを狙う。

10:10 - 10:50 住宅・土地利用政策による地域人口への介入効果推定

長谷川普一(新潟市GISセンター)

1968年制定の新都市計画法は、市街化区域と市街化調整区域を区分する制度を導入し、無秩序な市街化の防止と計画的な宅地開発の誘導を図った。この開発規制が地域人口に与える影響を検証するため、政策介入の有無を条件に、土地利用属性等を織り込んだシミュレーションにより1970~2050年の人口を予測し、実績値との比較から介入効果を推定した。

* 1件の報告は報告時間20分程度、質疑応答15分程度といたします。
オンラインによるライブ配信の録画、録音などを禁止します。